

ナリ、子ズミヅルト呼ブ、即百鳥圖ノ灰鶴ナリ、今食用ノ鶴肉ハ皆此鳥ナリ、然ドモ味ハ黒ヅルニ次グ、中品ナリ、略○中

陽鳥 クロヅル キヌカヅキ

形鶴鷄ヨリ小ク、頂ハ赤褐色、頂背白色、胸ヨリ全身尾脚皆淡黑色、背ハ微短青黄色、鳴聲ハ丹頂ニ似タリ、肉味佳ナリ、鶴類中ノ上品トス、一種色淺者ヲウスバミト云フ、一種奥州ノシモフリ鶴モ、陽鳥ノ屬ナリ、

増、キヌカヅキハ陽鳥ノ一種ナリ、形鶴ト同ジ、頭ヨリ頸マデ黒シ、咽ヨリ腹ニ至リ、茶色ニシテ微シ白斑アリ、頭ニ黒色ノ絹ヲ被リタル如シ、背ヨリ尾ノ末マデ正黒ナリ、喙青黒クシテ足淡青色、頰ノ赤ミアルト無トアリ、九州邊ニ多シ、文化元甲子年、阿州城南ヘモ來レリト云フ、

〔東雅禽十七鶴略〕○中 又一種青蒼色のもの、俗に眞名鶴マナヅルといふあり、舊説にまなづるは、一説に白鶴也と云ひけり、藻鹽上古の俗、眞名井眞名鹿など云ひし語に依らむには、白鶴を呼びて云ひしも

知るべからず、此物は爾雅に鶺鴒と見えしもの、宋玉招魂に煎鴻鶺といひ、景差大招に炙鶺蒸鳧といひしものにて、古人多く食ひし所と見えれば、マナとは櫛八玉神の天之眞魚マナヅメ咋ヅメと云ひしが如く、その食ふべきを云ひしも知るべからず、亦俗に黒鶴といふ者の如きも、鶺鴒の類と見えけり、

瑞鶴

鶴飼養法

〔延喜式二十祥瑞略〕玄鶴○中 右上瑞

〔百千鳥下〕丹頂 餌かい 米ひへ、菜、も

大きな眞那鶴より又よほど大にして、毛色總體世にゑる所ゆへ略す、古鳥に成ては子も随分出來る物なれども、大鳥ゆへ常體の場にては飼がたし、きれなる物也、子にはどせう又川魚を飼ふ、玉子は二ツ産也、